

3頭のぞう

第三日暮里小学校 二年

岡本 誠寿

やなぎ田先生、こんにちは。

わたしは、東京の上のどうぶつ園の近くにすんでいます。よくおかあさんやおとうさんのじてん車でつれてってもらいます。わたしは、「かわいそうなぞう。」という本を読みました。この話は上のどうぶつ園に、おはかがあります。そこには人げんによってころされたどうぶつ園のどうぶつたちと3頭のぞうがねむっています。その3頭がどんな風にころされてしまったのかという話です。

この本を読んで2頭のぞうワンリーとトンキーがしんじやうとところがかなしかったです。ぞうが

かりの人が子どものようにかわいがっていたからです。もし自分がぞうだったら、なきながら「なんできゆうにごはんがもらえないの、なんでお水がもらえないの。」と、おじさんにまい日ひっしでつたえるだろう。きっとおなががすいて力が出なくてげいとうなんてできない。

わたしは、この本を読みおわってどうぶつ園に行っておはかをさがしてみたいと思いました。今もせかいのどこかで3頭のぞうたちみたいなどうぶつ園があるかもしれない、せんそうをやめてほしい。わたしは、せんそうをしらないけれどこの本でしったことをわすれません。どうぶつ園でせんそうのためにころされてしまったどうぶつたち、自分の子どものようにかわいがっていたしいくがかりの人たちをわすれないと思います。